

ジャイアントスラローム

成年男子B 富井 大賀 選手 (野沢温泉スキークラブ)

第80回冬季国スポあおもり大会において優勝することができ、大変嬉しく思います。今大会に向けて、夏場からヨーロッパ遠征を重ね、雪上での技術練習や本場のレース経験を積みながら準備を進めてきました。国スポへの参加は今回が2回目となり、前回の山形大会では思うような結果を残すことができませんでした。その悔しさもあり、今回は自分の実力を出し切り優勝を狙う気持ちで大会に臨みました。シーズンを通して思うような結果が出ない時期もありましたが、自分がやるべきことに一貫性を持って取り組み続けてきたことが、今回の結果につながったと感じています。日頃から支えてくださる方々や応援してくださる皆様へ感謝し、今後は2028年に長野県で開催される国民スポーツ大会に向けて、さらに努力を続けていきたいと思っております。



優勝者コメント(第80回国民スポーツ大会冬季大会スキー競技会)



かんぱれ!Team長野

公益財団法人
長野県スポーツ協会

成年男子C 清水 大 選手 (小賀坂スキークラブ)

連覇へ向けた挑戦

群雄割拠のアルペン成年男子C組で連覇を果たそう。というのは正に「針の穴を通す」ような挑戦でした。

参加者の全てが、本職をこなしながらも、限られた練習時間の中で大会に挑む。というのが国民スポーツ大会の成年C組の戦いだとは私と考えています。

この大会に挑戦する機会を作ってくれた家族、練習環境を作ってくれた所属先の小賀坂SC・ホームゲレンデの聖高原スキー場、応援していただいた方々には感謝の気持ちを伝えたいです。

長野県選手団のチーム力

2月12日に開催地である青森県大鰐温泉に現地入りし、2月16日のレースに向けたトレーニングが開始されました。初めて訪れたスキー場でしたので、非常に難しい調整が要求されました。

現地でのトレーニングは、当然限られた時間、混雑する練習コースで行われることになります。その中でコース状況を把握し、気象状況を予測しながら自分のコンディションとマテリアルの調整を正確に行うことが必要でした。

長野県選手団のサポートは素晴らしいものでした。コーチからの的確な情報伝達、トレーナーによるケアの充実、選手同士で励ましあう雰囲気。このすべてが相まって、私自身の優勝に繋がってくれたと感じています。

100分の8秒差の勝利

レース当日のコンディションは非常にいいものでした。オガサカスキーのサービスマンによって仕上げてもらったスキーも素晴らしく、レースへ向かう準備は万端でした。

事前トレーニングによって、腰などに痛みが出ていましたが、トレーナーによってそれも解消してもらった状態でレースに挑むことが出来ました。用意してもらったウォームアップトレーニングの感覚も良く、高まる緊張の中最高の準備をさせてもらったと感じながらスタートに向かうことが出来ました。

レース本番。この1分間にすべてを発揮することが出来ました。納得のいく滑りでした。

それを以てして、ライバルだと思っていた北海道代表の選手との差は0.08秒。ぎりぎりの勝利でした。

何が欠けても勝利には届かなかったと考えております。最高に嬉しい優勝です。また次へ向けて頑張れたらいいなと思っております。



コンバインド

成年男子B 渡部 善斗 選手 (北野建設スキー部)

14年ぶりの出場となりましたが、会場の雰囲気は相変わらず国スポ独特の緊張感と一体感があり、懐かしい気持ちになりました。期間中はコーチやスタッフの手厚いサポートに加え、少年、成年Aの選手からも良い刺激をもらいながら思い切って試合に臨むことができ、両種目で良いパフォーマンスが発揮できたかと思えます。

改めてスキーを楽しむという気持ちと、国スポでしか味わえない高揚感を感じられた試合でした。



少年男子 富井 孝 選手 (飯山高校3年)



2026年青森国スポに長野県代表として、ノルディックコンバインド競技、少年組で優勝することが出来ました。まずは素直に優勝できたことを嬉しく思います。そして様々なサポートをして頂いた長野県スキー連盟の皆様にはものすごく感謝しています。ありがとうございました。

国スポの開催場所はアルペン種目とクロスカントリー種目は青森県でジャンプ、コンバインド種目は秋田県でした。毎年行われている、全セクション合同の結団式は無く、少し寂しい気持ちもありましたがジャンプ、コンバインド種目の方々は試合会場でも、ものすごく盛り上げてくれました。そのおかげで、楽しんで競技に取り組むことが出来ました。同じ長野県チームにはオリンピックで銅メダルをとった経験のある渡部善斗さんがいました。同じチームとして行動したり、成年B組で優勝されているのを見て、ものすごく刺激を受けました。これからは自分も世界で活躍できるような選手になり、誰かの憧れとなれるように成長していきたいです。

クロスカントリー

成年男子A 笠原 将 選手 (炭平スキークラブ)

この度、第80回国民スポーツ大会冬季大会において、二連覇という最高の結果を残せたことを心から光栄に思います。昨年の優勝を経て、『追われる立場』として挑んだ今大会での勝利は、私にとって大きな自信となりました。

しかし、ここまでの道のりは決して平坦ではありませんでした。連覇への期待がプレッシャーとなり、自分を見失いそうになった瞬間もありました。それを乗り越えるために、昨年以上に厳しい強化合宿を行い、世界転戦を通じて、技術だけでなく精神面の強化にも励んできたことを思い出し自らを奮い立たせました。

今回の二連覇は、私一人の力ではなく、支えてくださった指導者の方々、家族、そして切磋琢磨し合えるライバルがいたからこそ成し遂げられたものです。この結果に甘んじることなく、ワールドカップ20位以内、国内レース制覇というさらなる目標に向けて、さらに精進してまいります。

これからも変わらぬご声援をよろしくお願いいたします。この度はありがとうございました。



女子 4×5kmリレー 小林 千佳 選手 (長野日野自動車SC)



第80回国民スポーツ大会、クロスカントリースキー競技に出場しました。成年B5kmで準優勝、リレーでは4連覇を達成することができ嬉しく思います。

国スポは長野の代表として出場するため他のレースとは違った雰囲気を感じ、私にとってはいつも以上に気合が入る大会です。個人種目では優勝できず悔しい思いをしましたが、次の日のリレーでは頼もしい後輩達と共に楽しく滑ることができました。「4連覇」がかかったアンカーということでプレッシャーはありましたが、強い長野県のアンカーを任せていただいたことがとても嬉しく、その思いが力になりました。

長野県の強い先輩方と一緒に参加してきた国スポですが、いつの間にか女子最年長に。私の憧れた“強い長野県”を引っ張っていく存在としてこれからも競技に打ち込んでいきたいと思えます。2028年には信州やまなみ国スポが開催され、クロスカントリースキーはわたしの地元である飯山のコースが会場となります。長野からそして飯山からスキー競技を盛り上げていきたいです！